

## 目標達成計画

作成日: 平成 23年 3月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は、年6回を目標に開催する事を期待します。	運営推進会議は、「おおむね2か月に1回以上」開催することを目標にしていました(基準85条かっこ書き)。そのため、第6回目の開催が翌年に少しずれ込んでしまうことがありました。今後は年内6回の開催を目指します。	運営推進会議構成員の方々(利用者ご家族・地域自治会役員・地域包括支援センター職員等)の更なるご協力をお願いしていきます。	12ヶ月
2	11	管理者の運営方針を職員は共感しているが、管理者も職員の思いや提案、きずきを共有し、運営に取り入れる事を期待したい。	職員は、管理者より指示を受けた業務をただ遂行していればよいというのではなく、自らも、熱意をもって主体的に業務に関わること。また、その創意と工夫に基づく介護への提案は積極的に運営に取り入れられるべきである。	職員の思いや提案、気づきを、ミーティングで発表してもらい、それを集約したうえで、運営に反映させるようにしていきます。	2ヶ月
3	33	終末期の看取りについて、事業所としての前向きな方針を決める必要がある。本人・家族と話し合いをして、事業所で出来る事と出来ない事を明確にし、協力して支援が出来る準備(職員の教育も含め)を期待したい。	個々のご家族との間で、今後心身の状態が悪化した場合の対応について話し合い、終末期の対応について一定の合意を形成しておく。	グループホームは、共同生活を楽しむことにより認知症の進行を抑えることを目的とした施設ですから、終末期の看取りを無制限に受け入れることはグループホームとしての機能を失わせる危険を孕みます。グループホームでの看取りについてどう対応すべきかについては、今後運営推進会議等にて議論を深めていきたいと考えています。	6ヶ月
4	35	日常の散歩など外出を希望されない利用者の場合、体調の許す限り、短時間でも外出が出来るような支援の工夫を期待したい。又、地域の近所への外出は、地域の方がたと協力される事を期待したい。	短時間の散歩の回数を増やしていく。利用者さまと地域住民の方が顔見知りになれば最高です。	地域のお祭りへの参加、施設のイベントへの地域住民の方々の招待などを通じて、利用者さまと地域のみなさまとの接点を増やすよう努力していきます。	12ヶ月
5	48	特に夜間の災害には地域の協力が不可欠です。地域と連携した対策の早期確立を期待したい。	夜間の災害に対して、地域の協力を取り入れた避難行動マニュアルを作成する。	夜間の災害時において職員が果たすべき役割と地域の協力が得られる範囲とを明らかにし、地域との連携がスムーズに行われるようにします。	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。